

(参考)「健康医療分野のデータベースを用いた戦略研究」の概要

研究の背景

- 健康医療分野（健康・医療・介護・福祉分野を含むものとする。以下同じ。）の大規模データ（以下「データ」という。）の分析結果の活用は、厚生労働省における重要な課題の一つであり、現在、その基盤整備が進められているところである。
また、学会や医療機関等においても、疾患等に関する大規模データベース（以下「データベース」という。）の構築に向けた取り組みが行われている。
- 一方で、データベースを用いた研究や施策への反映については、近年、その重要性が指摘されてきたが、これまでの実績が限られており、データの分析と活用を促進するためには、国、地方公共団体、保険者、学会、医療機関等で様々に構築されつつあるデータベースの拡張や連結、人材育成等のデータベース活用の障壁になっている事項を明らかにし、解決策を検討する必要がある。
- これまで、戦略研究の課題については、原則として介入研究を実施してきたところであるが、「課題の特性に応じて他の研究手法とすることも可能とする」としていることから、健康医療分野におけるデータの分析及び基盤整備についての課題を設定し、観察研究を実施することとした。

研究の内容

- 原則として既存のデータベース（例：厚生労働省が保有する第三者利用が可能なデータベースや、研究に協力が得られる地方公共団体・医療機関等が保有するデータベース）を用いて、下記のいずれかに関する仮説を立案し、その分析を行うことにより、国民の健康に関する課題の解決に向けた各種のエビデンスを創出する。

- 1) 国民の疾病予防、健康増進、介護予防に資するもの
 - 2) 診療行為の有効性の検証及び均てん化に資するもの
 - 3) 医薬品・医療機器の効果検証に資するもの
 - 4) わが国の医療提供体制の検討に資するもの
- 解析の対象とする疾患等は可能な限り複数とし、包括的かつ大規模にデータに収集されたデータの分析を実施することが望ましい。
- 既存のデータベースの拡充やデータベース間の連結、データ抽出の標準化の推進等を行うことにより、大規模データの分析および基盤整備の仕組み創りの観点で新規性のある取り組みが望ましい。

